

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和7年 3月定例会	
議案番号 議案名	議案第64号 令和7年度松戸市一般会計予算
議員名・会派名等	嶋原 舞
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	令和7年度 松戸市一般会計予算 賛成の立場で討論します。 それぞれの施策については、これまでに発言された議員みなさまの内容と同様、各部署において、市民の方が望んでいること・必要とされていることが丁寧に拾い上げられており、私たち市民の「いま」を見据えた施策が多く盛り込まれている内容だと感じました。 これから先に、令和8年度、9年度と、毎年予算が組まれていくなか、判断を行い、最終的な責任を負う立場である市長へ 市民の負託を受け、市民の代表として行政と関わる責務を負う立場にある私から、令和7年度予算に対する要望を述べ、最終的な賛成討論とさせていただきます。 今回挙げられた事業一つ一つ、予算委員会でのやり取りやヒアリングを通し、私たちに必要なものであることが、理解できました。 私は、予算に対する評価において、個々の事業内容に対する賛否よりも、「そもそも、その事業は私たち市民にどのような成果・作用をもたらしてくれるのか」 加えて「その事業が短期的ではなく、50年後、100年後の、中長期的な視野の中で市全体として共有されたとき、私たちにどのような未来をもたらすのか」の展望を松戸市が説明できるかどうかを重視しています。

例えば、一つの事業として病院事業会計負担金・出資金の25億7千万円があります。

市立病院の赤字を一般財源から補填するもので、よく話題に上がるところですが、「単なる赤字補填」とだけ見なししてしまうのは正確ではありません。

松戸市立総合医療センターは、いわゆる一般的な病院とは異なり、三次救急医療、周産期母子医療、新生児への高度医療、そして24時間対応の小児救急など、非常に専門性が高く、

民間の病院では収益的に成り立ちにくい、いわば“公立だからこそ担える”医療を数多く担っています。

そのため、こうした事業に対しては、目の前の収支や経営効率だけで評価するのではなく、長期的に見た公共性や、市民の安心・安全への貢献といった観点からも、一般財源から資金して支えていく必要があると考えます。

今後もこうした財政的支援を計画的に行いながら、病院の持続可能な運営を確保していくことが重要ですし、同時にその意義や背景について、市民の皆さんにもわかりやすく説明し、理解を得られるような姿勢が、行政には求められていると強く感じています。

さらに、福祉長寿部や健康医療部など、各部署がより一層の連携を図りながら、後ほど触れる内容とも関わりますが、市民一人ひとりが、病気や介護に依存せず、できる限り自立して暮らしていけるような環境づくりに向けた議論や、

病院事業への負担金や出資金が単なる“赤字補填”として扱われるのではなく、結果として民生費や衛生費の抑制、さらには健康寿命の延伸による就労期間の拡大と税収の確保につながっていく視点での議論を深めていただきたいと考えます。

一般会計と特別会計は制度上は別枠ではありますが、互いに関係し合い、市全体の仕組みの中で連動していることを踏まえた予算の考え方が重要です。

市全体を俯瞰し、縦割りを越えて各部門がつながるような予算編成と運営がなされることを、今後さらに強く要望いたします。

さて、冒頭に初めに私は「私たち市民の「いま」を見据えた施策が多く盛り込まれていました。」と話しました。

医療、福祉、子育てについては、不安を抱える方々を支えるという意味で、一定の評価ができる内容だと受け止めていますが、今後は自分で決めたことは自分で責任をとることが当たり前の「自立を促す」視点に重きを置いた施策の展開が必要だと感じています。

自分の体や生活の責任をとるのは、行政ではなく一番に自分自身だという意識が、今後の手厚い政策によって、図らずも 抜け落ちていかにないように、一人一人の意識を育てるような政策が、真の意味での福祉政策、医療政策であり、良好なまちの持続にもつながると考えます。

市民の力ではどうすることもできないインフラ整備やまちづくりについては積極的な予算編成に大いに賛同します。

また、長期的に見て職員の異動や選挙による首長の交代があったとしても、職員の方にも、まちで暮らす市民にも、50年後100年後に残していく松戸市のビジョンが受け継がれるような仕組みが重要だと考えます。

予算編成時にこのような議論も入れていただけるよう要望します。

今回の討論を作成するにあたり 私自身も、市議会議員として、市民が行政の役割を理解し、政策や計画がより身近に感じられるよう伝えなければなりませんし、市民の声が届く場づくりや発信の工夫をさらにしていこうと気持ちを引き締めたところです。

自分の周りを重視する市民の目と、市全体のバランスをみる市長の目は、明らかに見ている広さ・高さが違います。

それは、当然のことであるのと同時に、その意識を市民も市長も共有し、お互いの立場を理解し合いながらまちづくりをすすめることが、予算を執行する上でも今後の松戸市には求められます。

3年先ではまだ目を出さない成果の上がない政策でも、10年先に花開くものであるなら、市民と行政との認識を一緒にするために話をさせてください。

50万人を迎えたこれからの松戸市が、より身近に、より市民が参画している意識が持てるよう、プロモーション含めた政策を大いに期待しています。

以上を踏まえ、令和7年度松戸市一般会計予算原案に賛成いたします。